



こんなことあったよ! のしろ白神ネットワークの活動レポート

令和元年 7月10・11日(水・木)
定期総会に行ってきました 編

国土計画協会地域連携推進団体協議会*では、毎年1回、国土計画協会からの支援決定団体による事業紹介と交流会を開催しています。東京と地方の交互で開催され、地方での現地見学会では支援後の具体的な取り組みを現地で学ぶことができます。今回は世界文化遺産登録を受けた長崎に全国から25団体から31人が集まりました。

今年度から「高速道路利用・観光・地域連携推進プラン」に取り組んでいる3団体のひとつは、一昨年度にのしろ市民まちづくりフォーラムにおいて下さった宇都宮さんのNPO法人シクロツーリズムしまなみ。これまでの取り組みを更にブラッシュアップされ、重点道の駅や宿泊施設との連携を強化しながら地域づくりを進めていかれるようです(詳細は協会HP参照)。

2月にご来能下さったときは東京からこまちに乗り、外の景色がどんどん変わって、雪も増えていくのを見て大丈夫なのだろうかとかかなり心配になられたとか。北国では当たり前な景色でも、雪に馴染みのない地域の方には初めての風景は災害級の驚きだったようです。地域資源を活用しながらサイクリストの聖地をつくりあげられた宇都宮さんには、自転車の季節にもおいでいただけたらと思いました。

今年度は例年とプログラムが異なり、事前の紙面調査をまとめた「会員団体の活動状況」をもとに、代表世話人・林克彦さんの司会によるフリーディスカッションで始まりました。抱えている課題を4つに大別。①人:リーダー・住民意識・地域の盛り上がり ②広報:SNS活用 ③誘客:インバウンド ④資金体制「事業化」を視野にリーダー育成する、交流人口を増やす観光、TV番組を利用した情報発信、異業種との連携による資金調達など各地の知恵が紹介されました。

続いてグラバー園の名誉園長でもある長崎総合科学大学のブライアン・ハークガフニ教授のご講演「長崎観光の歴史と今後の展望」では、長崎で「オランダ」はもともと西洋をさす言葉だったにも関わらず現在、有名観光地となっているオランダ坂にはオランダ風の外観建物が造られているという現状を例に、歴史をふまえた本物の地域づくりの重要性が指摘されました。「日常の郷土愛」というキーワード、とても印象に残りました。

文: 渡辺 千明

* (財)国土計画協会(旧・高速道路交流推進財団)の支援を受けた団体で構成。のしろ白神NWは平成22年に「観光資源活用トータルプラン」で優秀賞を受賞、3年間で1千万円の支援をいただきました。

一般財団法人国土計画協会の各プランのページ :

<http://www.kok.or.jp/project/highwayplan.html>



会場は隈研吾さん設計、市内一望の高級ホテル。生憎のお天気も「長崎は今日も雨だった」で皆さん納得です。会場ホールは大きすぎ、天井高すぎでどのお話も遠かったです。



もともと洋館が建っていたオランダ坂。オランダ風に建て替えられお土産やさんが立ち並びますが、駐車場等看板や景観色への配慮は残念ながら見られません。



あまり見かけなかった木製プランターカーバー。メンテナンスや植栽を考えないとせっかくの木材利用が生きないと再認識。